

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	カリキュラム・ポリシーに基づき、毎年見直しを行っている。とくに 2018 年度 4 月の学部改組による授業科目の大幅変更を踏まえ、学年進行にともなう授業の円滑な進行を図りながら、実施状況の把握に努めた。	3 年生以降の演習および卒業論文作成を意識した教育を、1 年生対象の基礎演習と共通演習など複数の科目で実施した。とくにプレゼンテーション力を高めることを目的とした。	シラバス作成、成績評価を大学の基準を順守するとともに、ディプロマ・ポリシーの検討を行い、あらためて教員間でその意味を共有した。	特に卒業論文は、学生との密度の高いコミュニケーションが必要であり、重視している。また客観的評価として、優れた卒業論文に学科長賞を授与、今年度からは各研究室の代表による学科の卒論発表会を開催して、多くの学生の意欲向上を図っている。	教育課程及びその内容、方法の適切性は、学科長・主事他数名の教員からなる農学科カリキュラム検討委員会を設置、検討を重ねている。定期的に学科会議などに諮問、協議して、常に改善・向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・農学原論、農業実習（一）（二）（三）および生物学実験などを配し、農学の起源を踏まえて、実習と実験を重視したカリキュラム体系になっている。	【長所】 ・卒業論文を早い段階で意識させ、問題解決能力、計画力、思考力やプレゼンテーション力を身に付けさせられる。	【長所】 ・実習、演習を重視することで、知識だけでなく、思考力、判断力、問題解決能力を身に付けさせられる。	【長所】 ・全員に卒業論文に取り組ませることで、学習成果の把握を可能としている。	【長所】 ・もっとも伝統のある農学科の特徴である実験、実習を重視した教育方針を継承されている。
	【特色】 ・実学を意識した実験、実習を実施している。学科内の 6 研究室の特色を最大限に活かした生物学実験（2 年次配当科目）を実施して、3 年次での専門分野を学ぶ研究室選択に役立っている。	【特色】 ・卒業論文を早い段階で意識させ、問題解決能力、計画力、思考力やプレゼンテーション力を身に付けさせられる。	【特色】 ・社会人や大学院生として主体的、協働的な活動ができる能力を重視した評価となっている。	【特色】 ・卒業論文は 3 年次のできるだけ早い段階から意識付けを行い、卒業後の幅広いニーズに対応できるよう配慮している。	【特色】 ・実習は伊勢原農場の協力が欠かせない。協力を得ながら、充実した内容となっている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・教員の業務量増加で、本取り組みに充てる時間が不足している。
	【課題】 ・COVID-19 の対策で培った遠隔授業の利点を活かした授業の更なる改善。	【課題】 ・COVID-19 の対策で培った遠隔授業の利点を活かした授業の更なる改善。	【課題】 ・COVID-19 の対策で培った遠隔授業の利点を活かした授業の更なる改善。	【課題】 ・COVID-19 の対策で培った遠隔授業の利点を活かした授業の更なる改善。	【課題】 ・学生の履修において授業の選択幅が狭い。
根拠資料名	資料基 1（令和 4 年度時間割）	資料基 2（卒業論文シラバス）	資料基 3（農学科 3 ポリシー）	資料基 4（令和 4 年度 農学科卒業論文発表会報告）	資料基 1（令和 4 年度時間割）

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	2018 年 4 月からの学部改組が実施されたことを踏まえ、学科の独自性を確保しながら、農学部全体を盛り上げるべく、出張講義等に赴き学生募集に取り組んだ。さらに、入学センターと連携し、新しい入試制度である指定校選抜をスムーズな導入、今年度は 6 名の志願者であった。加えて、個々の選抜制度の目的に沿って、口述試験（面接）の評価基準を更新した。共通テスト利用でも 2 科目型の導入、3・4 科目型でも理科の科目を増やすなど、これまで以上に多くの生徒が志願できるよう環境を整えた。	農学部入試広報委員会と連携を取りながら、改善・向上に向けて取り組んでいる。特に出張講義には力を入れて、高校生からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどの改善に向けた参考とした。さらに、入試イベントは可能な限り対面形式として、模擬農学科体験、教員との懇談を図り、受験生にできる限り寄り添い、農学科の特徴を伝えることに努めた。遠隔形式においても、対面形式に劣ることが少なくなるように、時間を掛けて対応して農学科の特徴を伝えることに努めた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学科の入試問題作成委員会を中心に、適切な入試問題、面接での質問事項の改善に努めた。 ・志願者数については、COVID-19 の影響を最小限にできた。	【長所】 ・受験生ひとり一人に時間を掛けて対応することで、農学科教員の学生と一緒に学び、研究に取り組む姿勢、雰囲気を与えている。
	【特色】 ・積極的に若手教員を動員して、長期的に一貫性を保ち公正な入学者の選抜を実施できる体制を整備した。 ・出張講義など高校等からの要請に可能な限り対応し、かつ若手教員の積極的な派遣により、最新の研究内容を紹介して、農学科の魅力の広報に尽力している。	【特色】 ・農学部全体の取り組みの中で、農学科としての特徴を明確にした。その中で、生産農学という軸は維持しつつ、消費者のニーズを意識する生産から流通までの学びが理解できる取り組みに努めている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・他学科との志願者の競合および志願者全体の下げ止まり。	【問題点】 ・改善に向けた取り組みを検討する時間が足りない。
	【課題】 ・コロナ禍での受験者確保に向けた活動、特に入試イベント等への参加を促す情報発信の創意工夫。さらに、高校生、高校教諭および保護者など対象毎に、それぞれに関心をひいてもらう、かつ求めている情報を精査して発信できていない。	【課題】 ・改善に向けた取り組みを十分に検討できる時間を捻出できていな。
根拠資料名	資料基 5 （令和 4 年度出張講義一覧）	資料基 5 （令和 4 年度出張講義一覧）

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本年度、大学、学部の方針に則って、農学科でも以下の通り明示した。 1. 持続可能な次世代型農業の創造に貢献できる教員 2. 農学に関する知識を基盤に、作物生産の発展に資する教育・研究能力を持つ教員 3. 農学に関する知識を基盤に、農産物の生産から流通までを支える技術の発展に資する教育・研究能力を持つ教員	学科の教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置した。さらに、研究室の教員間のコミュニケーションの向上を図るために研究棟の研究室配置をフロア毎に再配置した。新規採用の人事を進めるにあたって、編制方針を意識した。	本年度に次々年度の新規採用教員（助教1名、教授1名）の枠取りを申請、承認された。次年度の公募にあっては、本学の理念を理解して、実習担当はもちろん、研究室での卒業論文指導とともに、研究室活動が担える人材を選考する。昇格人事については適切に行った。また任期制教員への指導も、「大学任期制教務職員の専任化審査判定表」に基づき適切に行った。	学科内の研究室横断型の卒業論文の推進などを通じて、教員の質の向上に努めた。さらに、これらが学科全体で今後取り組めるプロジェクト等のシーズとなるように、学科としての卒業論文発表会を実施した。さらに、若手教員の留学を積極的に実施している。	学部改組にともない、新生農学科も完成年度を迎えた。学科内の主任会において、教員組織の適切性について、点検・評価した。また今後の教員採用に際し、農学科の未来を見据えた議論を行った。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・農学科のディプロマ・ポリシーに沿った内容になっている。	【長所】 ・実習教育を意識した教員配置になっている。	【長所】 ・新規採用については、当該研究室の今後の方向性を議論、幅広く、かつ深い専門性はもちろん、本学の教育を理解し、人材育成にも貢献できる教員を幅広く募っている	【長所】 ・研究室間のコミュニケーションを意識し、必要に応じて各研究室の教員の強みを活かして、研究室横断的に卒業論文の指導に取り組んでいる。さらに、留学により国際的な感覚を養っている。	【長所】 ・前研究室の教授が参加する主任会で議論、方向性を決定している。
	【特色】 ・研究室はもとより、分野を意識した内容になっている。	【特色】 ・実学主義を踏まえた研究活動を教育に活かせる教員を配置している。	【特色】 ・研究者としてだけでなく、教育者として、多くの人材を育てることのできる若く活動的な人材を求めている。	【特色】 ・各研究室との緊密な連携を図ることで、教育や研究の成果の社会実装を推進、教員の資質向上を図っている。	【特色】 ・主任会での方向性を学科会議で示し、学科全体で議論することで、組織全体の改善、向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・新規採用者を決定する時期が極めて遅い。	【問題点】 ・留学等による教員不在期間の対応。	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし。	【課題】 ・特になし。	【課題】 ・より良い人材を確実に確保するために、採用行程を早期かつ迅速にする必要があるが、大学組織が巨大で鈍重となり改善が進まない。	【課題】 ・留学等による教員不在期間の代替教員の確保など、研究室の負担軽減と教育の質の低下の回避。	【課題】 ・議論に充てる十分な時間が足りない。
根拠資料名	資料基 3（3つのポリシー）	資料基 3（3つのポリシー）		資料基 6（研究室研究概要）	資料基 7（学部・学科・課程紹介）

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名動物科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 講じている ☒ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・H30年度改組カリキュラムが2巡目に入り、この反省を生かしたプログラムを編成し、R6年度より開講予定である。	・研究室での密を避けるため、担当学生との打ち合わせなどもオープンスペースを利用し、効果を上げた。また、学部再編で新たに学科に配当されたスペースを共通講義室として整備し、研究室配属後の学生の研究発表の場を確保した。	・進級、卒業判定会議の結果を学科教員全員に開示し、学科会議にて確認している。 ・学科目は出来る限り複数教員が担当し、相互に成績確認しながら最終評価を下している。	・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）は、毎年学科会議において変更点の有無を含め確認している。	・教育課程及びその内容、方法の適切性について大学で実施している学生による授業評価アンケートの結果を考慮し、講義内容の改善や向上を試みている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・農学部としての学生像をふまえた、学部共通実習の充実	【長所】 ・討論への自由参加	【長所】 ・学科教員による成績不良学生の把握 ・成績評価の共通理解	【長所】 ・学習成果の共通理解	【長所】 ・定期的な点検・評価 ・授業担当者を複数とすることで教員相互の点検が可能となる。
	【特色】 ・農学リテラシー	【特色】 ・オープンスペースの活用	【特色】 ・複数教員による学生評価	【特色】 特になし	【特色】 ・新カリ作成に当たり、教職も含めた既得資格の存続と食品衛生管理者任用資格の再取得のためのカリキュラムとした
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学部共通で金曜を1年次必須の農業実習、原則全教員対応としたため、時間割、空き教室等がタイトである。	【問題点】 ・オープンスペースに機器を持ち込んだ実験サンプル処理が散見される。	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 ・農業実習担当教員の確保	【課題】 ・学部再編成で新たに生じた学科配当スペース(研究棟会議室等)の有効利用	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	カリキュラム・ポリシーとシラバス	オープンスペース利用記録	合同教授会、進級等の資料 学科会議記録	学科会議記録録	FD委員会記録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・学部としての学生像を踏まえ、学科の独自性を確保しながら、学生募集等に取り組んだ。 ・R3年度からは指定校推薦制度を導入し、神奈川県と東京都を中心に全国の高校を選定し、3年度 18名、4年度 14名の新入生を得るに至った。	・出張講義に力を入れて積極的に行っている。高校生ならびの高校教員からの反応を見極め、アドミッション・ポリシーなどを改善した。 ・選抜入試制度毎の学生の GPA、研究室入室後の卒業論文への取り組みなどの評価、検証を行うべく準備している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・アドミッション・ポリシーに基づいた入学試験科目の設定	【長所】 ・学部、学科としての制度や体制の見直し
	【特色】 特になし	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・指定校制度による入学者数の確保	【問題点】 特になし
	【課題】 ・首都圏の高校を中心に、指定校をさらに充実させ、入学者を確保する	【課題】 特になし
根拠資料名	入学センター入試選考委員会記録	入学センター入試選考委員会記録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・大学・学部の方針に則り、動物に係る生殖・遺伝・生理といった生命科学関連領域、および栄養・衛生・動物行動といった良質で安全な食料を生産する生産科学領域で活躍できる人材を養成し得る、強い意欲と能力を持った教員をバランスよく配置している。	・教育研究上の目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを十分理解し、その具現化に向け強い意欲を持つ教員を研究室に配置している。	・教員の募集、採用は完全公募制とし大学ホームページ、JRECK-IN ならびに関連学会 HP で公開している。 ・昇格基準を満たした教員に対しては、研究室を通じて昇格申請を提出する様に指導している。	・任期制教員に対しては、毎年教育・研究目標の達成状況を面談にて確認している。任期制教員以外は、大学が実施している自己点検に委ねている。	・学科教授会において教員組織の適切性(特に職階と年齢構成)について確認している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ディプロマ・ポリシーに基づいている	【長所】 ・学際的領域をカバー出来る学科教員体制	【長所】 ・複数の媒体による公募のため一募集あたり 15 名前後の応募がある	【長所】 特になし	【長所】 特になし
	【特色】 特になし	【特色】 ・研究室、分野を考慮した編成	【特色】 特になし	【特色】 ・任期制教員に対して学部長、同補佐、学科長の 3 名による面談実施。	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 ・分野によって教員の職階と年齢のバランスが取れていない場合がある。	【問題点】 ・一部昇格が停滞している教員がいる。	【問題点】 ・人員不足から若手教員の国内外留学が滞っている。	【問題点】 ・教員への評価は業績に偏り人格の評価が難しい。
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 ・採用時、業績のみならず人格に対して十分に検討を行う。	【課題】 ・業務の分散化	【課題】 特になし
根拠資料名	大学 HP の教員・職員公募案内、JREC-IN Portal	東京農業大学農学部教員紹介、農学部 GUIDE	大学 HP の教員・職員公募案内、JREC-IN Portal、学科会議事録	任期制教員面談記録	学科会議記録

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名生物資源開発学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 講じている ☒ 一部講じている ☐ 講じていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	オムニバス形式の講義を一定数開講し、学科教員の講義に広く接する機会を設け、学生の教育効果の向上を図った。また、通常の講義以外にも生物多様性に関わる特別講義を実施している。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記すると同時に、初回講義において学生に説明している。シラバスの作成及び成績評価は大学の基準を順守して行った。研究や研究室活動で優秀な学生を学位記授与式などで表彰する仕組みの構築に努めている。	オリエンテーションやフレッシュマンセミナー、実習・演習、必修の専門基礎科目、分野別実験・演習時に学科の教育・研究目標を明示し、レポート等で学習成果の把握に努めている。	改組に伴い1年次生の実習・演習がほぼ学部共通の内容となったことで、学科内での点検のみならず、学科横断的な検討委員会を設置し、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 1年次から、農学の基盤となる「生物多様性」を意識した教育を実施している。	【長所】 オムニバス形式の講義により学科教員の講義に広く接する機会を設けている。	【長所】 学生個々の研究や研究室活動を評価するよう努めている。	【長所】 実習ではポートフォリオの作成を指導している。	【長所】 ・教職員と事務職員で構成される「改組検討委員会」を設置している。
	【特色】 1年次から、座学のみならず、実習・演習科目を前・後期に配置している。	【特色】 講義以外のプログラム実施による生物多様性に関する学習機会を設定している。	【特色】 学生の研究内容や研究室活動の実績を踏まえて優秀な学生を選定し、学位記授与式において学科長賞を授与する。	【特色】 特になし	【特色】 学科横断的な改組に関する検討委員会を定期的に開催している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名		1_1. 特別講義①第4回資源の森ポスター 1_2. 特別講義②1、2年生対象ポスター			1_3. 2021年度・改組点検委員会構成メンバー

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	本学科は特定の農用生物のみならず、野生の動植物から昆虫、薬用植物とそれらの遺伝資源に至る幅広い生物に興味関心を持つ学生を求めており、入試課とも連携して入試制度を整備し、学生募集等に取り組むとともに、公正な入学者選抜に努めた。	開設年度より毎年、学科独自の新入生アンケートを実施し、入学後のミスマッチが起きないように、学科教員間で情報共有に努めている。さらに、新入生に対して学科教員ごとにクラス別懇談会を実施し、学生生活を円滑に送ることができるよう配慮している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 農学系のみならず理学（生物学）系、薬学系志望の学生にも魅力的な学科であること。	【長所】 アンケートを活用した入学後ミスマッチの防止に努めていること。
	【特色】 近年、農学分野でもその重要性が認識されはじめた「生物多様性」をキーワードとした学科紹介を徹底していること。	【特色】 出張講義、進学相談などあらゆる機会を捉えた広報宣伝活動による学科の教育・研究への理解促進に努めたこと。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	2_1. 2022 年度・オープンキャンパス開催報告 2_2. 2023 年度・各総合型選抜志願者数；2_3. 2023 年度・一般選抜 A 日程・大学入学共通テスト利用選抜前期志願者数；2_4. 2023 年度・一般選抜 B 日程・大学入学共通テスト利用選抜後期志願者数	2_5. 2022 年度・資源学科・新入生アンケート結果一部㊞

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学・学部の方針ならびに学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教員組織の編成の考え方及び特色に従った方針を学科として明示している。	学科新設時に教育研究上の目的を十分理解し、その具現化に向けた強い意欲を持つ教員配置が行われ、維持されている。	令和5年4月着任教員の枠取り申請および令和4年4月着任教員の選考、令和4年4月における学科教員の昇任申請を適切に行った。また設置4年目となり、大学院設置を見据えた昇任等を適切に行なった。	学内外の研究費への積極的な応募による教員の個人研究の推進、他機関研究者との共同研究の推進、さらには研究室や学部横断型の学内外プロジェクトの推進などを通じて、教員の資質の向上に努めている。	教育・研究以外の業務が特定教員に偏らないよう、学科会議等を通じ、組織内での役割分担の点検・評価を行うとともに、事務職員との連携を深め作業の効率的を計るよう努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 実験系とフィールド系教員のバランスを意識したこと。	【長所】 実験系とフィールド系教員のバランスを意識したこと。	【長所】 大学院設置を意識した人事計画。	【長所】 調査・研究に対する意欲が高い教員が多いこと。	【長所】 特になし
	【特色】 農学の基盤となる「生物多様性」をキーワードとする学科であるため、「植物・動物・昆虫・薬草・遺伝資源」と多様な分野をカバーする教員組織を謳っていること。	【特色】 農学のみならず理学、薬学、人間環境学と多様な分野をカバーする教員構成となっていること。	【特色】 特になし	【特色】 ほぼ全教員が学内外の研究費を獲得し、個人、共同研究プロジェクトを遂行するとともに、教育にも還元する努力をしていること。	【特色】 事務組織との連携を意識していること。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし
	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし	【課題】 特になし
根拠資料名	3_1. 2022 年度-学部・学科課程紹介・農学部生物資源開発学科	3_1. 2022 年度-学部・学科課程紹介・農学部生物資源開発学科	3_2. 2022 年度・資源学科・学科教授会議事録	3_3. 2022 年度・資源学科・学科会議議事録	3_4. 2022 年度・資源学科・教員の学内業務履歴

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名デザイン農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科設置時に文科省に提出した「設置の趣旨等を記載した書類」に記載されている教育課程の編成の考え方及び特色に従って、体系的に編成している。	座学と実習・演習との関連について説明しながら授業を展開している。実習・演習では内容ごとに詳細を記した資料を配付している。	シラバス等で科目ごとに評価基準を明記している。 大学の基準に従った成績評価および単位認定を行った。	学生の履修・単位取得の状況および進級・卒業判定の情報を学科教員で共有し、必要に応じて学生指導を行っている。	学科内での点検・検討を行い、内容の改善・向上に取り組んでいる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 配付資料を活用した復習ができ、知識の定着が期待できる。	【長所】 なし	【長所】 クラス担任および研究室教員による細やかな学生指導が可能である。	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・履修のてびき	・シラバス〔農業実習(一)(二)〕〔デザイン農学基礎実験実習・演習〕〔デザイン農学専攻別実験実習・演習〕	・履修のてびき ・学生生活ハンドブック〔成績、進級、卒業〕	・履修のてびき	・学科会議議事録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	アドミッションポリシーに従った学生募集及び公正な入学者選抜を実施した。	学生の履修状況と興味のある領域についての把握を行い、3年次以降のより専門的な教育と研究指導につなげられるように努めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学科の特色でもある理系のみならず文系の学生を獲得するために、文科系の入試科目を設定している。 オープンキャンパスなどで受験生に対して学科の説明を行っている。	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・大学案内 ・学科会議議事録	・学科会議議事録

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学部の完成年度以降、研究科を含めた適切な教員組織編成に関して、検討を随時行っている。	学科を新設する際に予定された教員組織編成となっている。	退職する教員の後任人事を適切に実施している。 研究科の安定に向け、昇任を適切に行っている。	学科会議等で意見交換・検討を行っている。	定期的に点検・評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 各研究室3名の教員を配置し、円滑で細やかな教育研究活動を行うことができる。	【長所】 学科および研究室教員の専門性、年齢構成を考慮した人事を行っている。	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 なし	【特色】 学科の特色である幅広い「農」の領域をカバーする教員編成となっている。	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名	・学科会議議事録	・大学案内 ・学科会議議事録	・学科会議議事録	・学科会議議事録	・学科会議議事録

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学生と教員とのより良いパートナーシップの構築による学士力の向上		
実行サイクル	2 年サイクル（令和3～4年度）	年サイクル（令和 年～ 年）	年サイクル（令和 年～ 年）
実施 スケジュール	4月：新入生オリエンテーションの実施（1年生） 5月、7月：クラス別懇談会の実施（1年生） 9月：世界学生サミットへの参加（全学年） 11月：収穫祭文化学術展への参加（1年生、3・4年生） 通年：農業実習（一）（二）での学科独自の学内実習（1年生） 通年：学外農業研修・実習報告会の開催（全学年） 通年：演習・実験・卒論研究室における取り組み（3・4年生）		
目標達成を測定する指標	原級率、就職率および進学率		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	COVID-19による感染症のため、新入生オリエンテーションなど開催が遅れたものの実施できた。1年生のクラス別懇談会や農業実習（一）のサツマイモ栽培で学生と教員との交流を図った。さらに、遠隔と対面との授業形式の併用で教員と学生との新しいコミュニケーションの形が生まれた。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・実習や実験など教員と学生との共同作業で苦楽を共有する	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・研究室活動、各科目やオフィスアワーで教員が学生の状況を常に把握している。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・COVID-19対策による対面機会のやや減少。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・ZOOMやTeams等のさらなる活用。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究室連携型卒業論文の推進による研究シーズの発掘		
実行サイクル	____2____年サイクル（令和3～4年度）	____年サイクル（令和____年～____年）	____年サイクル（令和____年～____年）
実施 スケジュール	通年：大学院農学専攻と連携しこれを軸とした研究発表会等の開催		
目標達成を測 定する指標	連携型卒業論文数および大学院進学率		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☒ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	4年生は卒業論文にしっかりと取り組めたことで、次年度以降の研究シーズとなる研究成果も少なくなく、学科で主催した農学科卒業論文発表会は有意義であった。一方、大学院への進学者の減少は歯止めが掛からない。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・実験時間に制限があった分、計画的かつ集中して実験を実施する。 ・所属研究室内のチームワークの質が向上する。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・所属研究室以外の研究室の教員、大学院生および学部生との交流が活発となる。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・低いままの大学院進学率	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・大学院進学率の向上	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	資料包1（令和4年度 農学科卒業論文発表会報告）		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	東京農業大学の農学科としての特徴を活かした学生の確保	農業支援関連組織（公務員【農学・農業職】、教員【農業】、企業【種苗・農薬・肥料・機械・施設・流通・金融等】およびJA）への就職支援	
実行サイクル	____ 2 ____ 年サイクル（令和3～4年度）	____ 2 ____ 年サイクル（令和3～4年度）	____ 年サイクル（令和 ____ 年～ ____ 年）
実施 スケジュール	通年：出張講義 通年：個人・団体見学対応 通年：指定高校推薦型選抜導入 通年：学科教員研究紹介の作成 通年：各種入試イベント	通年：企業等のインターンシップの周知 2月：公務員試験対策講座	
目標達成を測定する指標	出張講義数 個人・団体見学対応数 受験者数 新入生アンケート	<u>就職率</u>	
自己評価 （☑を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	COVID-19による感染症のため、対面での対応が困難な場合が少なくなかった。しかし、遠隔による入試イベントで高校生への学科紹介を実施した。さらに、依頼のあった高校へは教員を積極的に派遣して模擬講義等を実施した。指定校選抜導入も導入、高校訪問も積極的に実施した。	キャリアセンター（厚木）と連携して行政機関等のインターンシップの周知に努めた。公務員試験対策講座は対面で実施した。就職支援は長期的な取り組みが不可欠であり継続する。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・オンラインによるオープンキャンパスは全国から参加が可能となる。	【長所】 ・公務員試験対策講座は、公務員予備校でも対応が難しい専門科目で、カリキュラムの必修科目とは異なり、試験対策に特化した内容としている。	【長所】 ・
	【特色】 ・開催形式を問わず入試イベントでは、各研究室の教員が必ず一人待機して、参加者からの質問に対して詳細に回答できる。	【特色】 ・公務員試験対策講座の講師は、国家公務員または地方公務員を経験した教員で主に担当している。	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・入試イベントの負担軽減と内容充実。	【問題点】 ・インターンシップのオンライン化	【問題点】 ・
	【課題】 ・入試イベントの人手と予算の確保。	【課題】 ・低学年への農業関連の企業、団体および行政機関の業務内容のやり甲斐や魅力の伝達。	【課題】 ・
根拠資料名	資料包2（令和4年度出張講義一覧）	資料包3（公務員試験対策講座）	

学部・研究科名 農学部
学部長・研究科委員長名 馬場 正
学科名・専攻名 動物科学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	進級・卒業率の向上	卒業生による特別講義の実施	
実行サイクル	4 年サイクル（令和 4 年度～ 7 年度）	4 年サイクル（令和 4 年度～ 7 年度）	年サイクル（令和 年度～ 年度）
実施 スケジュール	・出席状況不良者への指導（毎年6月，7月） ・成績不良者への指導（毎年5月，2月）	・毎年前期1～2回程度	・
目標達成を測 定する指標	・進級・卒業率	・実施回数	・
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・1年次3名、2年次2名、3年次3名、4年次5名(うち畜産学科1名)が留年した。	・1年前期必修科目動物科学概論のオンデマンド教材にて、動物産業関連業に就いた20代同窓生による現職紹介を行った。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・担任によるきめ細かい指導	【長所】 ・リモート講義環境を利用して外部講師を依頼できる ・同窓生との連携	【長所】 ・
	【特色】 ・メール，面談等による個別指導	【特色】 ・講師を本学科動物産業関連に就職した若い卒業生に限定している	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・留年を繰り返す傾向にある 【課題】 ・特になし	【問題点】 特になし 【課題】 ・謝金の確保	【問題点】 ・ 【課題】 ・
根拠資料名	学科会議記録	シラバス	

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究会、学会発表への参加	学科優秀卒業論文発表会の開催と参加	
実行サイクル	4 年サイクル（令和 4 年度～ 7 年度）	4 年サイクル（令和 4 年度～ 7 年度）	年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	年間を通じて	令和 5 年 1 月 動物科学科優秀論文発表会開催	
目標達成を測 定する指標	具体的な指標は定めていない	参加研究室数、演題数、参加人数	
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・学会活動は大学院生への指導が主体となるため、学部学生の参加は一部の研究室に限定されている	全研究室参加で対面発表 6 演題、ポスター 20 演題 1、2 年生の参加も一部認められた	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ	【長所】 ・研究に対するモチベーションのアップ	【長所】 ・
	【特色】 特になし	【特色】 ・ポスター発表による学年を縦断した学生交流	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・調査しないと現状が分かり難い	【問題点】 ・幅広いテーマを扱う学生の発表に対して学科教員が採点し、順位付けを行うが、上位の研究テーマが固定してきている	【問題点】 ・
	【課題】 ・学科 HP, 研究室 HP・FB での積極的な公開	【課題】 ・特になし	【課題】 ・
根拠資料名	学科 HP、研究室 HP・FB、関連学会誌、要旨集	学科会議記録、学科 HP、優秀卒論発表会講演要旨	

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	改組に伴う新旧カリキュラムの円滑な移行		
実行サイクル	____6____年サイクル（令和 4 年度～ 9 年度）	____年サイクル（ 年～ 年）	____年サイクル（ 年～ 年）
実施 スケジュール	令和4・5年 新カリキュラム作成、R1 カリキュラム実施 令和6年新カリキュラム開始、～8年 新旧カリキュラム混在 令和9年より留年生を除き全学年 R6 カリキュラム		
目標達成を測 定する指標	・時間割編成 ・単位取得状況		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☒ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	新カリキュラム開始が1年延期され、R6年度よりの開講となり、サイクルが1年ずれた 留年生が4年次に在籍のため、畜産学科カリキュラム（H29）、動物科学科カリキュラム(H30)が混在している		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・R6 新カリでは農学部全学科横断的実習を適正規模とし、学科の既存資格の維持と前カリキュラム編成に伴い失った食品衛生管理者任用資格を復活している。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・新旧カリキュラムの混在	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・農学部全学科横断的実習および英語科目の運用方法 ・with コロナにおける教室の確保	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	時間割編成、単位取得状況		

部・研究科名 農学部・農学研究科
部長・研究科委員長名 馬場 正
学科名・専攻名 生物資源開発学科 ・生物資源開発学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①
目 標	学生の教育環境の保証（大学生生活を含めた学生の充実した教育環境作り）
実行サイクル	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）
実施 スケジュール	年間を通じて：学科会議において教員間で学生の教育および大学生生活の現状を共有する（4～3月）
目標達成を測 定する指標	学科会議議事録（教員への周知と議論内容） 学科独自プロジェクトの立ち上げ
自己評価 （ ☒ を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科独自の新入生アンケートの導入やクラス別懇談会の実施、必修科目を中心とした出席状況の把握と学科会議での情報共有に努めた。 2022 年度からは、山梨県小菅村での学年縦断・分野横断型のプロジェクトを開始した（2022 年 3 月 17 日締結）。1 年生のフレッシュマンセミナーを利用し、小菅村の自然や人の暮らし、地域おこしに関する座学の後、村で開催される「多摩源流はたけの学校」に希望者が参加した（延べ 29 人が参加）。2023 年度より本活動は農学部農業実習インターンの単位として認定される。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学生の意識や学習意欲が把握できること。学科独自の教育の場を提供できること。
	【特色】 学科会議ごとに FD 関連の情報共有に努めている。 学年縦断（1 年生以外も参加可）、他大学の学生、村民との交流を通じて、物事を多面的に見られるよう促している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 学生から「多摩源流はたけの学校」での活動を単位認定して欲しいという意見が出たため、2023 年度から単位認定できるようにした。
	【課題】 特になし。
根拠資料名	2_2. 資源学科・新入生アンケート結果一部㊟ 3_3. 2022 年度・資源学科・学科会議議事録 3_5. 2022 年度・小菅村研究教育連携活動内容；3_6. 2022 年度・多摩川源流 はたけの学校チラシ

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	生物多様性の解明や保全、生物資源の利活用に関する総合的・横断的研究の基盤構築
実行サイクル	_____年サイクル（平成_____年～_____年）
実施 スケジュール	学年縦断・分野横断的な教育研究の推進 2022 年度厚木キャンパス大学院研究発表会
目標達成を測 定する指標	プログラムの内容、参加学生の数など。
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	2022 年度からは、山梨県小菅村を調査地として、分野横断型のプロジェクトを開始した（2022 年 3 月 17 日締結）。3・4 年生、院生は研究の場として活用し、2022 年度は、野生動物学研究室、昆虫学研究室、遺伝資源利用学研究室が調査を実施した。その成果は、2023 年 3 月 3 日（金 13:30-15:00）に、「小菅村研究発表会」としてオンラインで開催された。 大学院生対象として、農学部独自の 2022 年度厚木キャンパス大学院研究発表会が開催された。生物資源開発学専攻は修士 1 年のみだが、4 名が参加した。 学外講師による特別講義も活用しながら学生の研究意欲の向上に努めた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 分野横断的な教育研究が促進される。 学科教員によるプロジェクト研究の推進により、生物多様性に関する研究基盤の構築が進んでいる。
	【特色】 学生を交えた発表会とすることで、発表する教員も分かりやすい説明を心がけ、専門分野以外の研究内容も理解しやすくなる。 分野横断的な研究展開により学科の特徴を分かりやすく発信できるようになる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし。 【課題】 特になし。
根拠資料名	1_1. 特別講義① 3_5. 2022 年度・小菅村研究教育連携活動内容 3_7. 2022 年度・厚木キャンパス大学院生研究発表プログラム

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	
実行サイクル	_____年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	
目標達成を測 定する指標	
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・
	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・
	【課題】 ・
根拠資料名	

学部・研究科名農学部

学部長・研究科委員長名馬場 正

学科名・専攻名デザイン農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	本学科のディプロマ・ポリシーの確立固めを目指し、完成年度（昨年度）までの成果を分析し、新カリキュラム設定を行う。	
実行サイクル	1 年サイクル（令和4年～令和5年）	
実施 スケジュール	・年間を通じて：学科会議、カリキュラム検討会など ・12～1月：シラバス作成	
目標達成を測 定する指標	・学科会議の実施 ・カリキュラムおよびシラバスの作成と点検・見直し	
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	
目標に 対する 現状説明	学科会議を定期的および必要に応じて臨時で実施している。 新型コロナ感染への対応を考慮したシラバスの作成を実施している。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	
	【特色】 ・特になし	
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	
	【課題】 ・特になし	
根拠資料名	・学科会議議事録	

2. 研究に関する総合的事項

	①
目 標	ポスト・コロナ禍での充実した研究活動の活性化を目指し、研究室の体制を整える。 （研究室所属3,4年生の年間を通じた交流機会を増やし、研究活動および引継ぎなどの円滑化を図る）
実行サイクル	1 年サイクル（令和4年～令和5年）
実施 スケジュール	・年間を通じて：研究室における研究活動 ・中期：卒論中間発表 ・後期：卒論発表および卒論提出
目標達成を測定する指標	・研究室活動への出席状況 ・卒業論文の成果
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	研究室での活動が復活し、研究室所属学生全員の出席がみられ、収穫祭・文化学術展へ全研究室が出展参加した。 卒論研究の活性化により、卒論内容の充実が図られ、卒論発表会が対面で実施された。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・研究室所属学生の交流機会が増え、人的繋がりが強まるとともに、研究が進展する。
	【特色】 ・3,4年生が共存することで、上級生から下級生への引継ぎが効率よく、研究が滞りなく進む。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・卒業論文 ・収穫祭パンフレット

3. その他に関する総合的事項

	①
目 標	アドミッション・ポリシーに則った学生と学生数の確保
実行サイクル	1 年サイクル（令和4年～令和5年）
実施 スケジュール	・通年：出張講義および高校訪問 ・通年：個人・団体見学対応 ・キャンパスツアー，オープンキャンパス，収穫祭の進学相談時の対応
目標達成を測 定する指標	・出張講義数 ・見学者数 ・進学相談者数 ・学生数
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	依頼のあった出張講義や見学依頼に積極的に対応している。(令和4年度：出張講義 22 校、高校訪問 9 校、見学対応 7 件) 進学相談に学科教員で対応している。(令和4年度：合格者向け説明会を独自に対面でも実施・3 件)
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・受験希望者からの情報収集（農大およびデザイン農学科への関心度、要望など）が可能である。
	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・学科会議議事録